

令和2年度インテリアプランナー試験 学 科 試 験

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

問 題 集

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

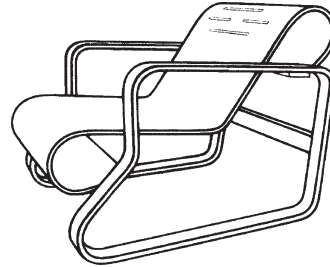
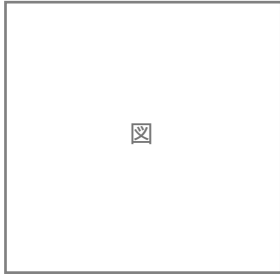
〔注意事項〕

1. この問題集は、表紙を含めて**10枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四肢択一式**です。
4. **解答は、各問題とも一つだけ答案用紙の解答欄に所定の要領ではっきりとマークして下さい。**
5. 解答に当たっての留意事項は、下記の(1)～(3)のとおりです。
 - (1)**適用すべき法令については、令和2年1月1日現在において施行されているもの**とします。
 - (2)建築基準法令に定める「構造方法等の認定」、「耐火性能検証法」、「防火区画検証法」、「階避難安全検証法」及び「全館避難安全検証法」の適用については、問題の文章中に**特に記述がない場合**にあつては**考慮しないもの**とします。
 - (3)地方公共団体の条例については、**考慮しないもの**とします。
6. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます**（中途退出者については、持ち帰りを禁止します）。

[No. 1] 図に示す椅子と作家名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

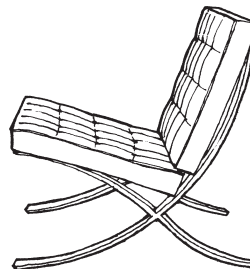
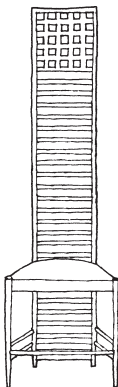
1. アルネ・ヤコブセン
(Arne Jacobsen)

2. ヴェルナー・パントン
(Verner Panton)



3. チャールズ・レニー・マッキントッシュ
(Charles Rennie Mackintosh)

4. ミース・ファン・デル・ローエ
(Mies van der Rohe)



(注)No.1の肢1の図については、著作権法上の関係から、掲載しておりません。
また、肢2の図については、著作権法上の関係からその出所等を明示しています。
肢2：「インテリア学辞典」(壁装材料協会発行、1995年)

〔No. 2〕 図に示す平面記号とその開口部の名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

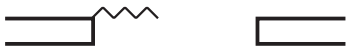
1. 片引戸



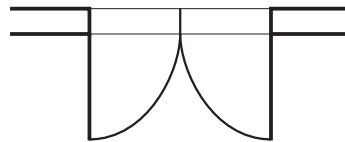
2. 上げ下げ窓



3. 雨戸



4. 両開き窓



〔No. 3〕 近代の芸術運動等とそれに関係する人物名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. アール・ヌーヴォー (Art Nouveau) ———— ヴィクトール・オルタ (Victor Horta)
2. デ・ステイル (De Stijl) ————— ヘリット・トーマス・リートフェルト
(Gerrit Thomas Rietveld)
3. バウハウス (Bauhaus) ————— ヴァルター・グロピウス (Walter Gropius)
4. ゼツェッション (Sezession) (分離派) ———— ウィリアム・モリス (William Morris)

〔N o. 4〕 建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コレクティブハウスは、市街地に残る比較的狭い空地を利用して建てられた町屋のような連棟式の接地型集合住宅である。
2. コンバージョンは、ある用途のために建てられた建築物を、部分的に改造・更新して別の用途の建築物として用いることである。
3. コートハウスは、建築物や塀で囲まれた中庭をもつ住宅の形式であり、狭い敷地においてもプライバシーを確保しやすい。
4. リノベーションは、既存建築物を生かしつつ、時代の変化に合わせて新たな使用に耐えるよう性能を刷新することである。

〔N o. 5〕 人体寸法及びインテリアの寸法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 椅子の設計において、身長 $\frac{1}{4}$ を座面の高さの目安とした。
2. 階段の設計において、昇降しやすい階段の蹴上げ寸法(R)と踏面寸法(T)の関係式として、 $2R + T = K$ (Kは自然歩幅程度で550~650mm)を採用した。
3. 高齢者が居住する住宅において、玄関の出入口の^{くつぎり}沓摺と玄関外側との床の高低差を、30mmとした。
4. 劇場の出入口の設計において、流動係数を用いて避難安全性を評価した。

〔N o. 6〕 車椅子使用者に配慮した計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 車椅子が支障なく転回できるように、廊下に150cm角のスペースを確保した。
2. 建築物の出入口の幅を、120cmとした。
3. 洗面台の洗面器下部の高さを、床面から65cmとした。
4. 照明器具のスイッチの高さを、床面から125cmとした。

〔No. 7〕 環境・省エネルギーに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ZEHは、室内環境の質を維持しつつ省エネルギーを行ったうえで、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支を0(ゼロ)とすることを目指した住宅である。
2. 再生可能エネルギーは、自然界に存在し繰り返し利用できるエネルギーのことであり、そのエネルギー源としては、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等がある。
3. 生物化学的酸素要求量(BOD)は、空気汚染を評価する指標の一つである。
4. 建築分野におけるライフ・サイクル・アセスメント(LCA)は、建設から解体までの建築物の生涯を通じての環境負荷や環境影響等を評価するものである。

〔No. 8〕 光環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 昼光率は、全天空照度が変化しても変化しない。
2. 輝度とは、ある方向から見た面の明るさを示す指標である。
3. 立体に光をあてて表面に陰影をつけることによって、立体感を出すことをレンダリングという。
4. 人の目が光として感じることは、約380~780nmの波長の放射である。

〔No. 9〕 空気環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 汚染物質を効率的に排出するためには、排気口を汚染源の近くに設置するのがよい。
2. 換気回数とは、室の1時間当たりの換気量を室容積で除した値である。
3. 冬期において、屋内の温度より外気温のほうが低い場合、屋内外の温度差によって、上部には外気が流入する力が生じ、下部には室内の空気が流出する力が生じる。
4. 居室の必要換気量は、一般に、室内の二酸化炭素濃度を基準にして算出する。

〔No. 10〕 室内環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 同じ厚さの一重壁の音響透過損失は、一般に、壁体の単位面積当たりの質量が大きいほど大きい。
2. 床や壁などの色彩計画において、一般に、色見本よりも実際に施工された大きな面のほうが、明度・彩度ともに低く見える。
3. 壁の内部に中空層を設けると、壁の熱貫流率が小さくなる。
4. 冬期のコールドドラフトを防ぐためには、暖房の放熱器を外壁の室内側の窓下に設置するのがよい。

〔N o. 11〕 電気設備に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 分電盤は、高温多湿の場所を避け、電力負荷の中心に近く、保守及び点検が容易な場所に計画するのが望ましい。
2. 中小規模の事務所ビルにおいて、電灯・コンセント用幹線の電気方式には、一般に、三相3線式が用いられる。
3. 受電方式には、1回線受電方式の他に、電力供給の信頼性に重点をおいたスポットネットワーク受電方式等がある。
4. 需要家に供給される電力の受電電圧の区分は、低圧・高圧・特別高圧の三種類である。

〔N o. 12〕 消火設備に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 屋内消火栓設備は、火災時に手動操作により放水する消火設備であり、消防隊が専用使用する。
2. 泡消火設備は、油火災に対して有効な消火設備である。
3. 二酸化炭素消火設備は、原則として、常時人がいない駐車場、通信機器室等に用いる。
4. 水噴霧消火設備は、噴霧ヘッドからの噴霧水による冷却作用と窒息作用等により、火災の抑制・消火をする消火設備である。

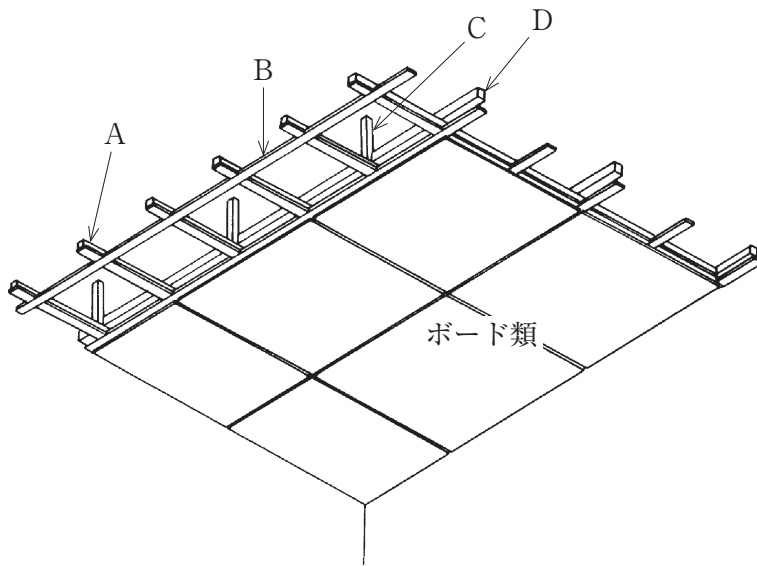
〔N o. 13〕 住宅における床の仕上げ材とその素材等との組合せとして、**最も不適當なもの**は、次のうちどれか。

1. 複合フローリング ————— 合板
2. 縁甲板 ————— 無垢材
3. クッションフロア ————— ビニル樹脂
4. フローリングブロック ———— パーティクルボード

〔N o. 14〕 せっこうボードに関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 住宅の洗面所の壁の下地に、シージングせっこうボードを用いた。
2. 学校の教室の天井の仕上げに、化粧せっこうボードを用いた。
3. 住宅の浴室の壁の下地に、強化せっこうボードを用いた。
4. 事務所の廊下の壁の下地に、硬質せっこうボードを用いた。

[No. 15] 図に示す木製天井下地の部材A～Dとその名称イ～ニとの組合せとして、最も適当なものは、次のうちどれか。



- イ. 板野縁
- ロ. 野縁
- ハ. 野縁受
- ニ. 吊木

	A	B	C	D
1.	イ	ハ	ニ	ロ
2.	ロ	ニ	イ	ハ
3.	ロ	イ	ニ	ハ
4.	ニ	イ	ハ	ロ

(注)No.15の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。
 図：「構造用教材 改訂第2版」（一般社団法人 日本建築学会発行、1995年）

[No. 16] 間仕切に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 可動間仕切のスタッド式は、間柱と間柱との間にパネル、ガラス、建具類をはめ込む方式である。
2. 可動間仕切のパネル式は、天井や床にレールを設け、これらの間に間仕切パネルをはめ込む方式である。
3. スライド式の移動間仕切には、遮音性能を高めたタイプのものがある。
4. 可動間仕切のパネル式は、スタッド式に比べて目地が多くなる。

〔N o. 17〕 カーテン・ブラインドに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. カーテンレールをダブルで取り付ける場合、カーテンボックスの奥行きは、100mm以上とする。
2. カーテンは、厚めのドレープで、たつぷりとプリーツ(ひだ)をとったものを使用すると、吸音性を高める効果がある。
3. ベネシャンブラインドは、障子に比べて断熱性に劣る。
4. パーチカルブラインドは、水平方向に取り付けたレールに縦長のルーバーを吊ったブラインドである。

〔N o. 18〕 畳に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

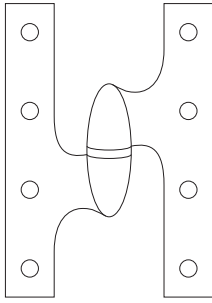
1. 畳床は、たたみどこ稲わら畳床、稲わらサンドイッチ畳床、建材畳床に分けられる。
2. 畳表は、たたみおもて畳の表層に張る敷物で、乾燥したいぐさ等をよこ糸にし、麻糸や綿糸などをたて糸にして織り上げたものである。
3. 畳縁は、たたみべり畳表の長手の縁を、たたみおもて畳に固定する目的で付けられる布製の縁である。
4. 畳は、敷居や畳寄せより高くなるように敷く。

〔N o. 19〕 カーペットに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

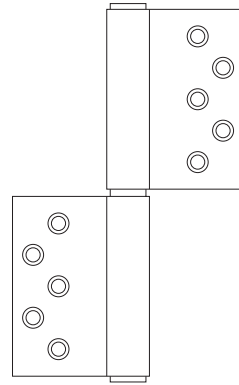
1. アキスミンスターカーペットは、多色使いのできる機械織りのカーペットである。
2. ウィルトンカーペットは、その製法上の特徴により、織糸は2～5色が一般的なカーペットである。
3. タフテッドカーペットは、パイルを機械で連続的に基布に植え付け、裏面をラテックス、合成樹脂接着剤で固め、裏地を張って仕上げるカーペットである。
4. ニードルパンチカーペットは、25mm以上のよりをかけたやや太めのパイル糸を使ったカーペットである。

[No. 20] 図に示す建具金物とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

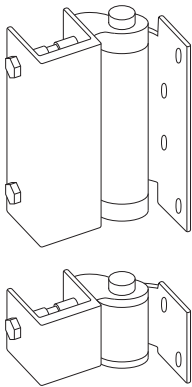
1. フランス丁番



2. ピボットヒンジ



3. ラバトリーヒンジ



4. クレモンボルト



(注)No.20の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。

肢1、3：「インテリア学辞典」（壁装材料協会発行、1995年）

肢2、4：「インテリア大事典」（壁装材料協会発行、1988年）

〔No. 21〕 照明の光源に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. LEDランプは、非常用照明として使用できるものがある。
2. LEDランプは、放電用ガスを使わない光源である。
3. LEDランプは、蛍光ランプに比べて発熱量が小さいため暖房負荷が低くなる。
4. 蛍光ランプは、周囲の温度の影響を受ける。

〔No. 22〕 サイン計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 視覚障害者誘導用ブロックは、弱視者が認識しやすいよう、敷地内の通路の床仕上げ材料との明度差、輝度比等に配慮して色を選定する。
2. 視覚障害者誘導用ブロックとして用いられる点状ブロックは、注意喚起や警告の機能を有するものである。
3. J I Sで定める安全色のうち、「青」の意味は、「危険」と「注意警告」である。
4. 蓄光式避難誘導システムに用いる蓄光式の安全標識、誘導ラインは、誘導灯及び誘導標識に追加して設置されるものである。

〔No. 23〕 建築物の内装又は内装材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 薄い壁紙やビニールシート等を用いた不燃材料の壁装材料は、燃焼拡大への影響は低いため下地を自由に選択できる。
2. 壁や天井の内装の不燃化を行うことは、着火の防止、急激な延焼拡大の防止に有効である。
3. 厨房において、火気の周辺の壁に薄い金属板を張る場合、下地に木材などの可燃物の使用は避けるべきである。
4. 木材に難燃剤を含浸させて難燃処理した木質内装材は、脱水作用による炭化層の形成などの酸素供給を阻止する作用により、燃焼発熱を抑制させることができる。

〔N o. 24〕 避難計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 病院の病棟において、1フロアを防火扉等で複数に防火区画する水平避難方式を採用した。
2. 物販店舗において、エスカレーターは日常的に利用する動線であることから、避難経路として計画した。
3. 不特定多数の者が集まる施設において、避難口に設けるドアの取手をパニックバーとした。
4. 大規模な建築物において、多くの避難者が利用する避難階段は、踊り場の途中に段差を設けない計画とした。

〔N o. 25〕 施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 石綿建材除去事業に伴って生じた飛散するおそれのある石綿を、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく特別管理産業廃棄物として処理した。
2. 可燃性の塗装材料の置場の構造は、不燃材料で造った独立した平家建てとし、屋根は軽量の不燃材料で葺き、天井は設けなかった。
3. 合成高分子系床タイルは、乾燥した室内に直射日光を避けて縦置きにして保管した。
4. 塗料等の化学製品を使用したので、作業期間中は安全データシート(SDS)を常備し、記載内容の周知徹底を図り、作業者の健康・安全の確保及び環境保全に努めた。

〔N o. 26〕 軽量鉄骨天井下地に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、天井は、特定天井及びシステム天井ではないものとする。

1. 野縁をクリップを用いて野縁受に取り付けるに当たり、クリップの向きを一方向にそろえた。
2. 人が出入りできる天井点検口の周りを、野縁受と同材の取付け用補強材を設けて補強した。
3. 天井のふとところが1,800mmであったので、補強用部材を用いて、吊りボルトの水平補強、斜め補強を行った。
4. 天井に段違いがある箇所については、下がり天井の野縁受に、斜め補強を2,700mm程度ごとに行った。





〔N o. 27〕 左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート壁面へのモルタル塗りに先立ち、吸水調整材を壁全面に塗布した。
2. コンクリート壁面にモルタル塗りをを行うに当たり、モルタルの総塗り厚が25mmを超えるので、躯体に打ち込んだステンレス製アンカーピンにステンレス鋼ラスを緊結し、塗り付けた。
3. せっこうプラスター塗りをを行うに当たり、コンクリート壁面への下地モルタル塗りは、調合をセメント1に対して砂3(容積比)とし、6mmの厚さで塗り付けた。
4. コンクリート壁面にモルタル塗りをを行うに当たり、ひび割れを生じさせないように、1回の塗り厚は7mmとした。

〔N o. 28〕 ブラインド・カーテン工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 幅1,800mmのベネシャンブラインドを、2個のブラケットを用いて取り付けた。
2. 2本のカーテンレールを使ってカーテンを交差させる場合、レールの交差部分を200mmとした。
3. ベネシャンブラインドのブラインドボックスの高さ寸法は、ブラインドをたたんだ状態で格納できる寸法とした。
4. ブラケットを使ってカーテンレールを取り付ける場合、ブラケットの取付け間隔を450mmとした。

〔N o. 29〕 J I Sにおける電気設備の配線用図記号とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1.  —— スピーカー
2.  —— 床付電話用アウトレット
3.  —— 換気扇
4.  —— 電話機形インターホン親機

〔N o. 30〕 各種工事とそれに用いる施工機器・工具との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 石工事 ————— びしゃん
2. カーペット工事 —— ニーキッカー
3. 木工事 ————— ちょうな
4. ガラス工事 ————— ヴィブラート

〔N o. 31〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(旧四会)連合協定「工事請負契約約款」(平成29年12月改正)に照らして、最も不適当なものはどれか。

1. 「工事用地」とは、敷地以外で設計図書等において発注者が提供するものと定められた施工上必要な土地をいう。
2. 「説明用図書」とは、設計図書等の内容を説明するために受注者が作成した図書をいう。
3. 「工事用図書」とは、設計図書等及び発注者又は監理者によって承認された施工図をいう。
4. 「部分引渡し」とは、工事の完成に先立って発注者が契約の目的物の一部引渡しを受ける場合の引渡しをいう。

〔N o. 32〕 木材及び木質材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. CLTは、ロータリーレース又はスライサー等により切削した単板を、主としてその繊維方向を互いにほぼ平行にして積層接着した材料である。
2. 死に節は、枯れた枝が幹内に埋まり、幹と枝との組織が繋がっていない節をいう。
3. 集成材は、ひき板、小角材等をその繊維方向を互いにほぼ平行にして、厚さ、幅及び長さの方向に集成接着した材料である。
4. 米赤杉は、レッドウッドとも呼ばれ、材は赤褐色であるが、日時を経ると黒くなる。

〔N o. 33〕 ボード類に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. M D Fは、木材などの小片を主な原料として、接着剤を用いて成形熱圧した板であり、耐水性が高い。
2. フレキシブル板は、セメントに石綿以外の繊維を多く配合し、高圧プレスをかけたもので、強度が高く可とう性がある。
3. フローリングボードは、1枚のひき板等を基材とした単層フローリングであり、直張り又は根太張り用として用いる。
4. A級インシュレーションボードは、木材繊維をよく絡み合わせた多孔質のボードで、屋根下地や床下地の断熱用として用いられる。

〔N o. 34〕 各種塗装仕様と略号との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 合成樹脂エマルジョンペイント塗り —— E P
2. クリヤラッカー塗り ————— U C
3. 木材保護塗料塗り ————— W P
4. 合成樹脂調合ペイント塗り ————— S O P

〔N o. 35〕 用語に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 建築物の床が地盤面下にある階で、床面から地盤面までの高さがその階の天井の高さの $\frac{1}{2}$ のものは、「地階」である。
2. レストランの調理室は、「居室」である。
3. テレビスタジオの用途に供する建築物は、「特殊建築物」である。
4. 避難上有効なバルコニーがある階は、「避難階」である。

〔N o. 36〕 内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法に適合しないものはどれか。ただし、いずれの場合も自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当しないものとする。

1. 屋内に設ける避難階段の階段室の天井及び壁の室内に面する部分は、仕上げを不燃材料でし、かつ、その下地を不燃材料で造った。
2. 地階に設ける遊技場において、居室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
3. 耐火建築物である平家建て、延べ面積3,500m²の図書館において、図書室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
4. 平家建て、延べ面積140m²の自動車修理工場において、作業場の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。

〔N o. 37〕 防火区画に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 主要構造部を準耐火構造とした地上3階建て、延べ面積190m²の一戸建ての住宅において、2階から3階に通ずる吹抜きの部分については、当該部分とその他の部分とを防火区画しなくてもよい。
2. 1階を自動車車庫(当該用途に供する部分の床面積の合計が130m²)とし、2階以上の部分を事務所とする地上5階建ての建築物においては、当該自動車車庫部分と事務所部分とを防火区画しなくてもよい。
3. 主要構造部を耐火構造とした地上3階建ての公会堂の客席部分は、その床面積の合計にかかわらず、防火区画しなくてもよい。
4. 避難階が地上1階であり、主要構造部を準耐火構造とした地上3階建ての事務所の用途に供する建築物で、各階に居室を有するものにおいては、1階から3階までの直通階段とその他の部分とを防火区画しなくてもよい。

〔N o. 38〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 地上4階建て、延べ面積1,600m²の物品販売業を営む店舗で、各階を当該用途に供するものにあつては、各階の売場及び屋上広場に通ずる2以上の直通階段を設け、これを避難階段又は特別避難階段としなければならない。
2. 非常用エレベーターを設置している建築物には、非常用の進入口を設けなくてもよい。
3. 排煙設備の排煙口には手動開放装置を設け、そのうち手で操作する部分は、壁に設ける場合においては床面から1.6m以上1.8m以下の高さの位置に設けなければならない。
4. 地上6階建て、延べ面積1,200m²の共同住宅について、敷地内には、屋外に設ける避難階段から道又は公園、広場その他の空地に通ずる幅員が1.5m以上の通路を設けなければならない。

〔N o. 39〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 学校における床面積70m²の教室において、所定の換気設備を設けない場合には、換気のための窓その他の開口部を設け、その換気に有効な部分の面積は、3.5m²以上とする。
2. 一戸建ての住宅に設ける階段の蹴上げ及び踏面の寸法は、延べ面積にかかわらず、それぞれ23cm以下及び15cm以上とすることができる。
3. ふすま、障子その他随時開放することができるもので仕切られた2室は、居室の採光の規定の適用については、1室とみなす。
4. 居室の天井の高さは、室の床面から測り、1室で天井の高さの異なる部分がある場合においては、その最高の高さによるものとする。

〔N o. 40〕 建築設備に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 事務所の用途に供する建築物において、発熱量の合計が6kWのこんろ(密閉式燃焼器具等でないもの)を設けた調理室には、換気上有効な開口部を設けた場合であっても、換気設備を設けなければならない。
2. 排煙設備を設けるべき飲食店は、床面積1,000m²以内ごとに防煙壁で区画しなければならない。
3. 地上5階建て、延べ面積1,500m²の事務所(避難階は1階)の5階にある床面積200m²の居室には、非常用の照明装置を設けなければならない。
4. 建築物に設けるエスカレーター(特殊な構造又は使用形態のものを除く。)は、通常の使用状態において人又は物が挟まれ、又は障害物に衝突することがない構造とし、勾配を30度以下としなければならない。

〔N o. 41〕 防災に関する次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。

1. 地上12階建て(高さ40m)の共同住宅の住戸で使用するカーテンは、防災物品でなければならない。
2. 地上8階建て(高さ30m)の事務所ビルの1階エントランスロビーで使用するじゅうたんは、防災物品でなければならない。
3. 地上2階建て(高さ15m)の展示場で使用する展示用の合板は、防災物品でなければならない。
4. 平屋建て(高さ4m)の宿泊所で使用する布製のブラインドは、防災物品でなければならない。

〔N o. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法施行令で定めるものを除く。)で足りるものはどれか。

1. 事務所から美術館に変更
2. 小学校から特別支援学校に変更
3. 寄宿舍から旅館に変更
4. 共同住宅から有料老人ホーム(避難が困難な要介護者を主として入居させるもの)に変更

〔N o. 43〕 次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。ただし、建築物は、いずれも無窓階を有しないものとし、指定可燃物の貯蔵又は取扱いは行わないものとする。

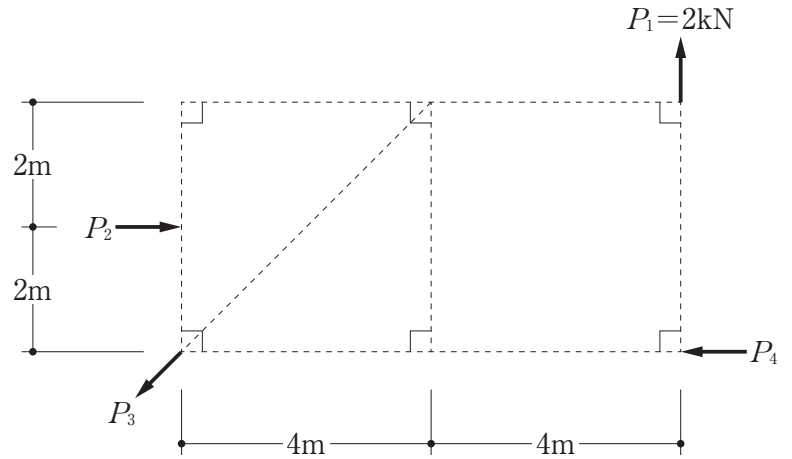
1. 主要構造部を耐火構造とした地上2階建て、延べ面積1,500m²の物品販売業を営む店舗で壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料としたものには、原則として、屋内消火栓設備を設置しなければならない。
2. 地上5階建て、延べ面積6,000m²のホテルには、原則として、連結送水管を設置し、3階以上の階のいずれの場所からも水平距離が50m以下となるように放水口を設けなければならない。
3. 特別養護老人ホームには、消防機関へ常時通報することができる電話を設置した場合であっても、原則として、消防機関へ通報する火災報知設備を設置しなければならない。
4. 消防法施行令別表第1に掲げる防火対象物の11階以上の階には、床面積にかかわらず、原則として、スプリンクラー設備を設置しなければならない。

〔N o. 44〕 次の記述のうち、関係法令上、誤っているものはどれか。

1. 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」では、特定建設資材を用いた建築物に係る解体工事であって、当該解体工事に係る部分の床面積の合計が80m²であるものの対象建設工事受注者又は自主施工者は、原則として、分別解体等をしなければならない。
2. 「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」では、分譲事業者は、譲受人を決定するまでに相当の期間を要すると見込まれる場合において、当該譲受人の決定に先立って当該住宅の建築に関する工事に着手する必要があるときは、単独で長期優良住宅建築等計画を作成し、所管行政庁の認定を申請することができる。
3. 「建築士法」では、建築士事務所に属する建築士が当該建築士事務所の業務として作成した設計図書又は工事監理報告書で、建築士事務所の開設者が保存しなければならないものの保存期間は、当該図書を作成した日から起算して10年間である。
4. 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」では、特定既存耐震不適格建築物の所有者は、当該建築物について耐震診断を行い、その結果、地震に対する安全性の向上を図る必要があると認められるときは、耐震改修を行うよう努めなければならない。

[N o. 45] 図のような四つの力 $P_1 \sim P_4$ が釣り合っているとき、 P_2 の値として、正しいものは、次のうちどれか。

1. 6 kN
2. 8 kN
3. 10 kN
4. 12 kN



[N o. 46] 構造計算における建築物の地上部分の地震力と最も関係の少ないものは、次のうちどれか。

1. 建設地の多雪区域の指定の有無
2. 建設地の地表面粗度区分
3. 建築物の重量
4. 建築物の高さ

[N o. 47] 木工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. せっこうボード張り用の壁胴縁の取付間隔を、303mmとした。
2. 仕上げ材の縁甲板張りの継手の位置は、受材の心で通りよくそろえた。
3. 和室の畳床たたみどこにおいて、根太の間隔を450mmとした。
4. 心持ち化粧柱には、髓まで背割りを入れたものを使用した。

〔N o. 48〕 壁の陶磁器質タイル張り工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 密着張りにおいて、タイルは、上部から下部へと張り進めた。
2. 接着剤張りにおいて、接着剤は、金ごてを用いて平たんに塗布したのち、所定のくし目ごてを用いてくし目を立てた。
3. 改良積上げ張りにおいて、タイルは、下部から上部へと順に張り上げた。
4. 改良圧着張りにおいて、タイルは、窓や出入口まわりなどの役物を最後に張り付けた。

〔N o. 49〕 劇場の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 上演中の客席部分の照度の推奨値は、3 lxである。
2. 左右対称に配置された客席では、その中心線上に客席内の縦通路を配置することは避けなければならない。
3. プロセニウムアーチとは、舞台と客席との間に設けられる額縁状のものをいう。
4. オペラ劇場において、可視限界距離を考慮して、最後部の客席から舞台の中心までの視距離は45mを限界として計画する。

〔N o. 50〕 事務所ビルの計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コアプランにおける分離コア型は、構造計画及び設備計画上の対応が必要であるが、自由な執務空間を確保しやすい。
2. エレベーターの設置台数の算定に用いる「ビルの在籍者数に対する最も利用者が多い時間帯の5分間に利用する人数の割合」は、一般に、複数のテナントが入る貸事務所ビルより自社専用の事務所ビルのほうが大きい。
3. 床面積が同じ事務室における机の配置形式については、一般に、対向式より並行(同向)式のほうが、多くの机を配置することができる。
4. レンタブル比は、貸事務所ビルの収益性に関する指標の一つであり、延べ面積に対する貸室部分(収益部分)の床面積の割合である。

